

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立榎本小学校の結果概要

- 本校の平均正答率を全国平均と比べると、国語は-1.9、算数は-1.4ポイント低くなっている。
- 大阪市平均との比較では、国語は大阪市平均と同じで、算数は1ポイント下回っている。
- 国語・算数ともに無回答率は全国平均と比べると国語は+1.2、算数は+1.5ポイント高くなっている。

【四分位区分】

国語では区分Ⅳの割合（学力に課題の見られる割合）に該当する数は全国より+4.4、算数では全国より+1.3と高くなっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

内容別正答率を見ると、「情報の扱い方に関する事項」において全国平均を大きく上回る結果となっている。他の5つの内容は全国平均を下回っていて、中でも「話すこと・聞くこと」の正答率が全国平均との差異が大きく、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように工夫する」ことに課題が見られた。

【算数】

領域別正答率を見ると、「変化と関係」領域は全国平均-0.1、大阪市平均+0.7となっている。「測定」「データの活用」領域において、全国平均を大きく下回っており、「表やグラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ったり、活用したりする」ことに課題が見られた。

質問調査より

- 朝食を毎日食べている児童は多いが、毎日同じくらいの時刻に寝る・起きる項目で最も肯定的な回答の割合が全国平均を下回っている。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」の項目において、最も肯定的な回答の割合が全国・大阪市平均よりも大きく下回っている。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目において、最も肯定的な回答の割合が全国・大阪市平均よりも大きく下回っている。
- 「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の項目で週3回以上と回答する割合が全国・大阪市平均を大きく下回っている。

今後の取組（アクションプラン）

国語科で見られる課題の取組みとして、本年度は「読む力を育てる国語科の指導の工夫」を取り上げ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて校内研究を行っているところである。全教員における教材研究、授業実践など、今後の取組みを深化充実させていくことで、本校児童の国語力の向上を図っていきようにしたい。

学校の授業時間以外で取り組んでいる学習時間に二極化の傾向が見られる。「全くしない」と回答する児童の割合が、全国平均と比較して、3.6ポイント高い。予習・復習を含め、家庭学習の取組みについて、家庭との連携を図り、具体的な内容を積極的に学校から提示することで児童が自立的に学習に取り組む態度を培っていく必要がある。